

*金 敬黙（キム ギョムク） 序章・第1章・第2章・第4章、コラム1・コラム4、対談

早稲田大学文学学術院 教授

[主な業績]

風間孝・加治宏基・金敬黙編著『教養としてのジェンダーと平和』法律文化社、2016年
[学生へのメッセージ]

便利でデジタルな時代だからこそ、道草してみたり、アナログにこだわってみたりして、自らリアルなモノやヒトの手触りやぬくもりを感じてみましょう。

森本麻衣子（もりもと まいこ） 第6章、コラム2

カリフォルニア大学バークレー校文化人類学部 博士課程在籍（Ph. D. Candidate）/
アジアプレス・インターナショナル所属

[主な業績]

「戦争・紛争と人権」ヒューマン・ライツ教育研究会編『ヒューマン・ライツ教育——人権問題を「可視化」する大学の授業（青山学院大学総合研究所叢書）』有信堂、2015年
[学生へのメッセージ]

この本を読んだあなたは、どんな魂の「越境」の旅を経験するのでしょうか？ どこかで報告をきけることを楽しみにしています。

野中 章弘（のなか あきひろ） 第3章、コラム3

早稲田大学教育・総合科学学術院 教授／アジアプレス・インターナショナル代表

[主な業績]

責任編集『ジャーナリズムの条件4 ジャーナリズムの可能性』岩波書店、2005年
[学生へのメッセージ]

知性とは「他者の言葉に耳を傾ける（忍耐）力」だと思う。社会の声なき声に耳を傾ける力をつけていこう。

鄭 康烈（チョン カンリョル） 第5章、コラム5

一橋大学大学院社会学研究科 博士後期課程在籍

[主な業績]

「在日コリアンの一般労働市場への編入に関する一考察——日本企業のアジアへの市場拡大とブリッジ人材としての役割期待」『ソシオロジ』195号

[学生へのメッセージ]

他の執筆者の先生方と、楽しみながら執筆しました。テキストを通じ、少しでも読者の方々の学びをお助けできれば幸いです。

南雲 勇多 (なぐも ゆうた) 第7章

東日本国際大学経済経営学部 特任講師

[主な業績]

「子どもと若者」田中治彦・三宅隆史・湯本浩之編『SDGsと開発教育——持続可能な開発目標のための学び』学文社、2016年（甲斐田万智子氏との共著）

[学生へのメッセージ]

学ぶことは生きること。だからこそ自分なりの学びの「型」を創ることが自分らしい生き方や社会づくりへつながるのだと思います。

直井 里予 (なおい りよ) 第8章

京都大学東南アジア地域研究研究所 連携研究員／アジアプレス・インターナショナル所属

[主な業績]

ドキュメンタリー映画『アンナの道～私からあなたへ…』（釜山国際映画祭2009出品他）

[学生へのメッセージ]

人と人との争いはなぜ終わらないのでしょうか。まずは私とあなたが協調し語り合いながら、心穏やかに時を生きることから始めてみましょう。

安田菜津紀 (やすだ なつき) 対談

Dialogue for People (ダイアログフォーピープル) 所属フォトジャーナリスト

[主な業績]

『写真で伝える仕事——世界の子どもたちと向き合って』日本写真企画、2017年

[学生へのメッセージ]

「知る」ことは、世界への扉を開く最初の一步です。この本も、その扉のひとつ。その先に広がる未来を、共に考えてみませんか。